

平成22年3月11日
秋田地区かわまちづくり懇談会

－Sun³マップ発行－ 川と地域に対する再認識と愛着を高める

秋田の「かわ」と「まち」のもつ潜在的な個性（豊かな自然、歴史、文化、食、遊泊、体験など）を活かしつつ、有効的に結節させ、自らが楽しい地域の創造を目指し、併せて、全国に発信することで、観光及び賑わいを創出し、「秋田地区全体の活性化」を図るため、平成19年度から民産学官によるワークショップを開催してきました。

新屋右岸・三角沼ワークショップの雄物川河口域マップづくり検討グループでは、雄物川河口域の潜在的な個性や宝を見つめ直し、あるいは見つけ出し、それを伝え活用していくことで、楽しい地域の創造と活性化を図り、また、自分達で掘り起こした地域の魅力を発信するために、この地区の特色でもある「三角沼」「散策」「サンセット」をキーワードにしたマップ（Sun³マップ）を作成し、活用してもらうことで、川と地域に対する再認識と愛着を高め、今後の市民主体の活動が盛り上がる事を期待し、作成しました。

このマップは、三角沼や雄物川水辺状況の変化、地域等からの意見を基に、これからも進化していくマップです。

マップの配布は、3月13日（土）秋田拠点センターアルヴェ1階で行われる活動報告会でお披露目してから配布されます。

<Sun³マップ配布概要>

配布日時：平成22年3月13日（土）以降

配布先：秋田市新屋周辺地域及び学校、西部市民サービスセンター
勝平コミュニティーセンターなど

発行者：新屋右岸・三角沼ワークショップ

発表記者会：秋田県政記者会、秋田市政記者会

【問い合わせ先】

秋田地区かわまちづくり懇談会 事務局
（窓口）国土交通省秋田河川国道事務所調査第一課
秋田市山王 1-10-29 TEL018-864-2288
調査第一課長 天野 厚毅 （内線351）
専門職 中嶋 正浩 （内線350）

※ 「秋田地区かわまちづくり懇談会」事務局は、秋田市・秋田県秋田地域振興局・国土交通省秋田河川国道事務所で行っております。

マップの印刷・折込においては「みちのく国づくり支援事業」の支援を受けています。

【 表面 】



秋田地区の自然めぐり
新屋右岸・三角沼ワークショップ

今からおよそ700年前、度重なる水害から秋田市を守るために、雄物川放水路がつくられました。その水辺には、水と緑がこけり出さぬ空間があることをご存じでしょうか。

現在、地域の有志や川の管理者等が一掃になって、この地域の美観をより良く、より活用しようとする、知恵を出し合っています。この散策マップは、そんな地域の活動を紹介します。さらに地域の良いところを皆さんに知ってもらおうと、作成しているものです。

参加者募集中

このマップは、三角沼や雄物川水辺状況の変化、それに皆さんからのご意見を基に、これからも進化していきます。マップの発見、おまひにワークショップへの参加をお待ちしております。

問い合わせ先
秋田地区かわまちづくり懇談会事務局
(国土交通省秋田川国造事務所 雄平第一課内)
TEL 018-864-2288 FAX 018-864-5204
e-mail kawa-akita@thr.mlit.go.jp

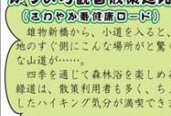
このマップは、おのれらがつくりあげた成果の結晶を凝縮して作成しました

石山平和観音



観音の終点付近は、沖合に遠くに見守る島山、南に雲峰島山を望む絶好の景勝地です。古くから霊驗あらたかなこの地には、33体の観音様がまつてあります。戦地に取った英霊を慰めるため、一番大きな石山平和観音は、海に向かい平和を願っています。

かつひら観音散策道



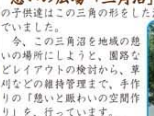
雄物新橋から、小道を入ると、住宅地のすぐ側にこんな場所がとびきりな山道が……。四季を通じて森林浴を楽しめるこの道は、散策利用者も多く、ちょっとしたハイキング気分が満喫できます。

水辺の広場



ちよとした敷地や水遊び、木陰での一杯に最適

憩いの広場「三角沼」



昭和30年代頃、この地域の子供達はこの三角沼の形をした沼のことを、「三角沼」と呼んでいました。今、この三角沼地域の憩いの場増進しようとする、雄物川レイアウトの検討から、草刈などの維持管理まで、手作りの「憩いと賑わいの空間作り」を行っています。地域の資産を、地域の手で、興味のある方、是非とも一緒に！



●雄物川右岸くまるとルートを● ●雄物川河口域周遊ルートを●

●水辺の広場ルートを●

●水辺のフットパスルートを●

●散策モデルルートを●

●地図凡例●

- かつひら観音散策道 (かつひら観音散策道)
- 水辺のフットパス
- コスモロード
- タビスポット
- ベンチ・休憩場所
- 案内板・道標
- 駐車スペース
- トイレ
- 横断注意

【 裏面 】

雄物川放水路が開通する以前、放水路を挟んだ二つの地域（現在の勝平と新屋）は、新屋という一つの町でした。その名残は、今も町名や街道の姿に残っています。

天長の大地震以前は「小平山」といっていたらしく、「出羽国風土記」には小平山と記されています。大樹があったと伝えられ、「京都三十三間堂」の棟梁には、この山から出たハギ（桂の一種）が使用されたといわれています。現在の勝平山は標高約48m、土崎港に相對しています。文化年間（1804年～1818年）には、栗田定之丞らの植林の成功により、黒松の森林となりましたが、現在はゴルフ場となり、北の勝平山は工場用地となっています。



その昔、勝平寺は勝平山にあった大きなお寺で、天長の大震災でなくなってしまう、幻の寺といわれてきました。八橋の「宝塔寺」境内にある仁王石像は、雄物川から掘り出したもので、勝平寺の遺物だといわれています。また、横手の「正平寺」は、勝平寺を継いだものだとされています。現在の勝平寺は、昭和39年（1964年）に建立されたもので、石竜山勝平寺といわれています。



勝平神社
現在の勝平神社は、勝平山にある勝平神社（祠）の建屋です。昭和5年に焼失しましたが、その後、現在の場所に移転、同42年に増築されました。

勝平寺
勝平寺は勝平山にあった大きなお寺で、天長の大震災でなくなってしまう、幻の寺といわれてきました。

勝平日吉神社
勝平日吉神社は平成4年（1992年）日吉神社の分社として建立されました。当時、勝平地区の人口は増え、日吉神社と距離もあつたことから、勝平地区の要望で分社されたものです。

羽州街道
羽州街道は、久保田城下から日本海沿いに南下し、越後村上を結ぶ道です。江戸期の主な利用者は旅人（塩・魚などの運搬者）でした。久保田城下の出口は馬口町です。川尻を通り新川橋上流あたりの渡し場から雄物川を渡り、勝平地区に入り、豊町・別山町・船場町を通って新屋町へ、愛宕町の地蔵堂から浜田村へ通って本町へと続いています。

町名の由来
新屋、将来の発展を願って

町名の由来
旧屋名の新屋寺山から

町名の由来
もと新屋寺山から